

富山・清水堂F遺跡

- | | | |
|---|---------------|-------------------|
| 1 | 所在地 | 富山市水橋清水堂 |
| 2 | 調査期間 | 一九九七年（平9）六月～九月 |
| 3 | 発掘機関 | 富山市教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 鹿島昌也 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 中世～近世（鎌倉・室町時代が主体） |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

標高は約9mを測る。遺跡から南へ2kmの立山町及び舟橋村周辺には、開田図が残る東大寺領大藪荘の存在が想定されている地域がある。その東には「里正」木簡が出土した辻遺跡が所在する（本誌第二二号）。

今回の調査は県営圃場整備事業に伴うもので、一九

九四年から一一遺跡を対象に試掘、発掘調査を行なっている。

清水堂F遺跡は、前年度の試掘調査の結果、七八〇〇㎡の範囲に広がっていることが確認され、掘立柱建物に伴う小穴群、溝跡などが検出されていた。今年度の発掘調査は約三〇〇㎡を対象に行ない、上下二層の遺構面が確認された。

木簡は、上層の中世以降の遺構面に形成された大溝、あるいは池と考えられる遺構の下部から出土している。同遺構内からは他に、珠洲焼、越中瀬戸焼、近世・近代陶磁器、漆塗椀、漆塗箸状木製品、漆塗杓子、下駄などの遺物が出土している。狭長な調査区の南端に木簡出土遺構は位置しており、そのすぐ南には改修された「大正用水」が流れている。このため遺構は改修前の用水路と重複している可能性があり、木簡は近隣から流れ込んだ遺物である可能性も否定できない。

8 木簡の釈文・内容

(1)

☐ 龍 ☐ 魚力

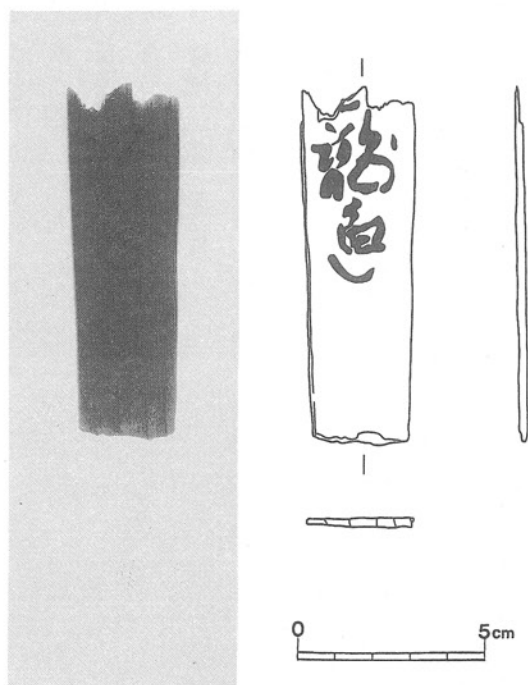
(95) $\times 30 \times 3$ 081

板状の材の上下両端が折損している。墨痕は比較的明瞭であるが、くずしているため判読し辛い。三字めは「迫」の可能性もあるが、字形や意味の通りからみて「魚」の可能性が高い。

釈読については、富山大学の鈴木景二氏、奈良国立文化財研究所の渡辺晃宏氏にご教示をいただいた。

富山市教育委員会『富山市水橋清水堂E遺跡 清水堂F遺跡』
(一九九八年)

(鹿島昌也)



木簡研究 第一五号

巻頭言

早川 庄八

一九九二年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京三条三坊三坪 平城京右京三条二坊三坪 藤原宮跡 藤原京右京五条四坊 丹切遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 中海道遺跡 勝龍寺遺跡 平安京跡・旧二条城跡 鳥羽離宮跡 大坂城跡 大坂城下町跡 喜連東遺跡 平野環濠都市遺跡 植附遺跡 袴狭遺跡(内田地区) 鴨田遺跡 六大B遺跡 安養寺跡 宮の西遺跡 赤堀城跡 梶子遺跡 城之内遺跡 二本柳遺跡 二之宮宮東遺跡 安養寺森西遺跡 世良田諏訪下遺跡 小茶円遺跡 番匠地遺跡 瑞巖寺境内遺跡 八幡林遺跡 綾ノ前遺跡 馬場天神腰遺跡 乾遺跡 宮永ほじ川遺跡 北高木遺跡 山崎遺跡 中島田遺跡 久米窪田森元遺跡 観世音寺跡(南門跡) 脇道遺跡 城原三本谷南遺跡 妻北小学校敷地内遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一五)

一 乗谷朝倉氏遺跡(第九次) 長岡宮跡(宮第三一・三三三)

草戸千軒町遺跡(第五・六・八次)

国・郡の行政と木簡

—「国府跡」出土木簡の検討を中心として

京都府相楽郡木津町鹿背山郷蔵の俵上札

彙報

加藤 友康
田中淳一郎

頒価 四五〇〇円 送料六〇〇円